

プラトン(B.C.469～399)の『クリティアス』と『ティマイオス』の伝説によると、アトランティス大陸には、理想的な国家があったといわれています。アトランティスの都城は、三重の水濠と二重の陸地の環状帯で囲まれ、中央に黄金の柵でめぐらされた神殿があり、一番外側には環状壁があって、七重構造であったとされています。

一方、『阿弥陀經』における極楽世界もアトランティスと同じく七重になっていて、よく似た構造をしています。さらに細部を比較してみても、例えば、『阿弥陀經』の「^{アミダキョウ}金銀瑠璃玻黎」が『クリティアス』では「金銀オリハルコン」と。そして、どちらも非常に住み良いところで、共に西の方角にある国である等、アトランティス世界と極楽世界とは、様々な関連性が見られるのです。